

平成 26 年度

「全国学力・学習状況調査」

— 結果の分析と今後の取り組み —

大阪市立大淀中学校

はじめに	1
1 調査の目的		
2 調査の対象		
3 調査内容		
平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」検証シート	2
国語	3
数学	4
学びの充実に向けて（1）	5
学びの充実に向けて（2）	6
基本的生活習慣	7
家庭学習	8
自尊感情・規範意識	9
学校・家庭・地域の連携	10
学校組織の改善	11

はじめに

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として生徒
- ・大淀中学校では、3年生 92名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立大淀中学校

生徒数

92

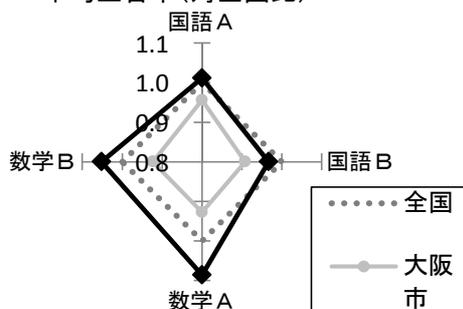
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	80.3	49.3	73.2	62.9
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

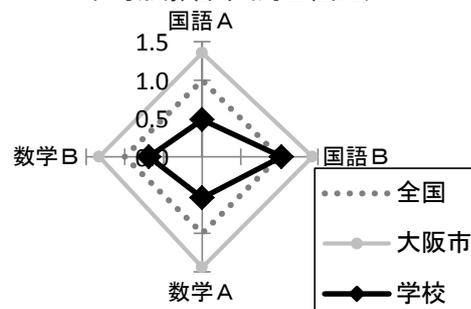
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	1.5	3.6	2.3	7.5
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

全国平均と本校との平均正答率のポイント差は、以下のとおりであった。

国語A 知識(+0.9) B 活用(-1.7)

数学A 知識(+5.8) B 活用(+3.1)

また、平均無回答率については、国語A・数学A・数学Bで全国平均を大きく下回り、国語Bでは、全国平均並みであった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、昨年度までの調査結果を参考にして、学校教育改善「アクションプラン」を策定し、取り組み内容を明確化して、教育活動を推進している。

今年度の取り組みテーマの一つ目を、学力向上に関わり、「わかる授業の創造とできる学力の定着」— 自立的に学習する生徒像—として、授業におけるわかりにくい、わからないことに応える指導に努めている。また、「学び方を育む」として、学習評価を次からの学びにつげるための評価活動の充実を図る取り組みを進めている。テーマの二つ目を、「信頼される学校づくり」— 地域・保護者と連携した教育活動—とし、ボランティアを導入して学力の向上に向けた取り組みを進めている。

これまでの調査結果から、本校は数学に比べると国語が低い状況が見られる。この課題に対応してこの3年間、言語力の育成に取り組んできた。現在取り組み中の学校教育改善「アクションプラン」の内容の深化・充実を図っていくことが今後の取り組むべき課題と考える。

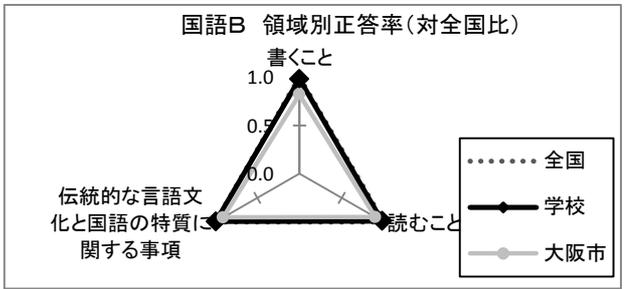
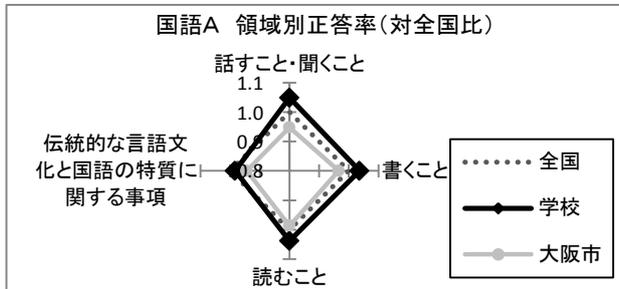
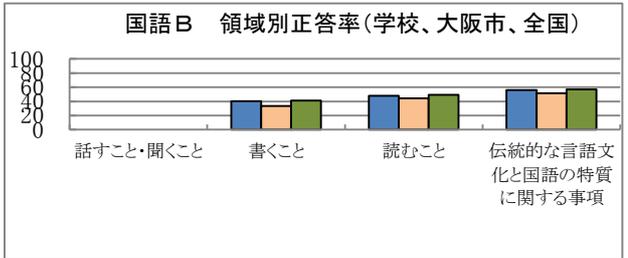
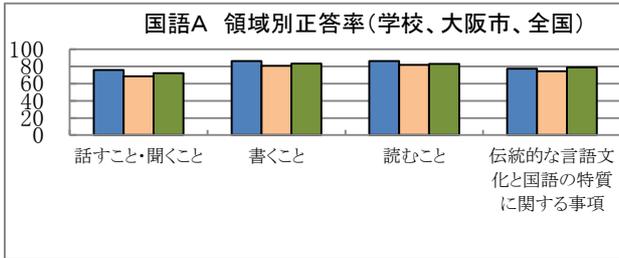
【国語】

結果の概要

A問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、全国平均を3ポイント程度上回ったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、わずかに下回った。
B問題では、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3点とも、全国平均をわずかに下回った。

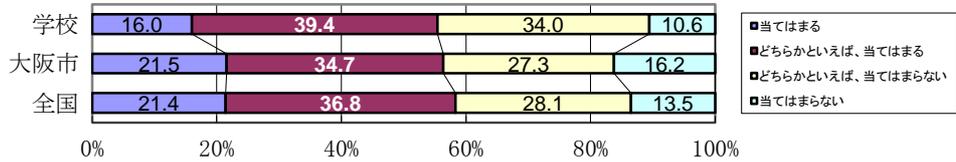
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	75.8	68.5	72.3
	書くこと	6	86.4	80.6	83.4
	読むこと	5	86.1	81.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	77.4	74.3	78.7

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	
	書くこと	3	40.1	33.6	41.0
	読むこと	8	48.1	44.1	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	56.2	51.3	56.8

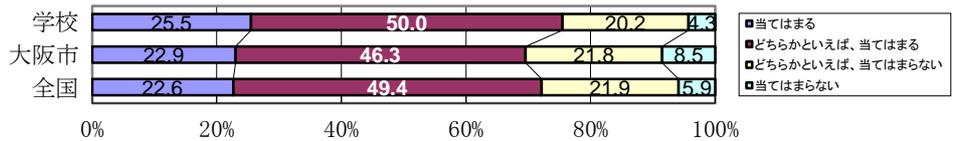


国語に関する「生徒質問紙」

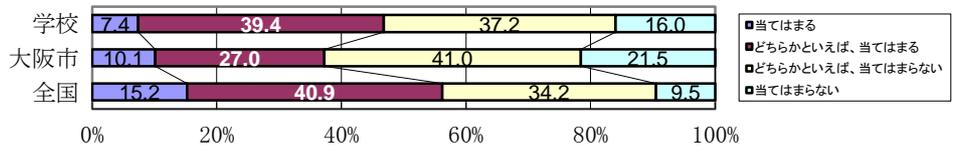
50
国語の勉強は好きですか



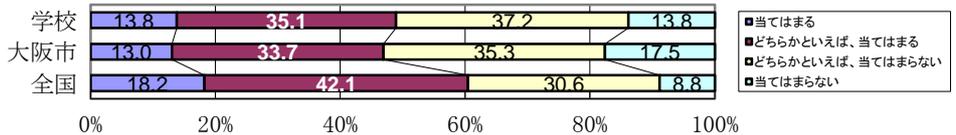
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

授業において言語活動を取り入れているため、理解できたこと、疑問点や関心を持ったことなどを整理する力はついてきている。しかし、根拠を明確にした上で自分の考えを書いたり、文語で書かれた作品を読み解いたりすることに課題があるため、指導の充実が必要だと考える。

今後の取組

自分が感じたこと、考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにしていく活動を指導計画に積極的に盛り込み、また、伝統的な言語文化に親しむための教材として、文語で書かれた近代詩や唱歌・童謡などを幅広く取り上げ、生徒の興味・関心を高めていきたい。

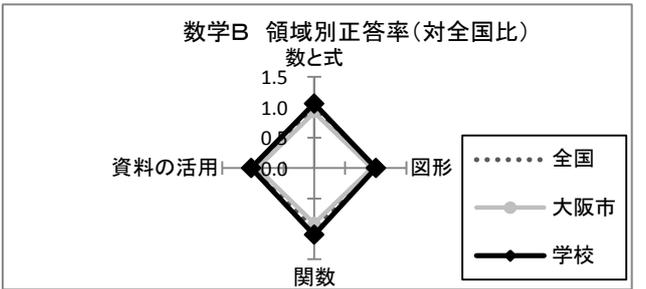
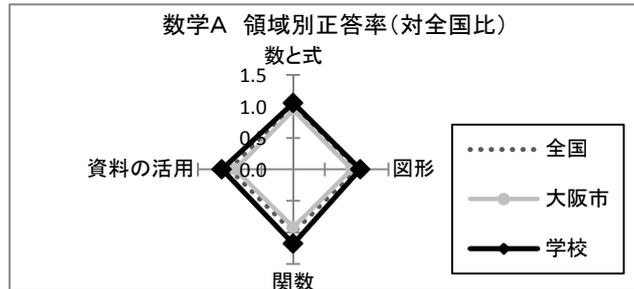
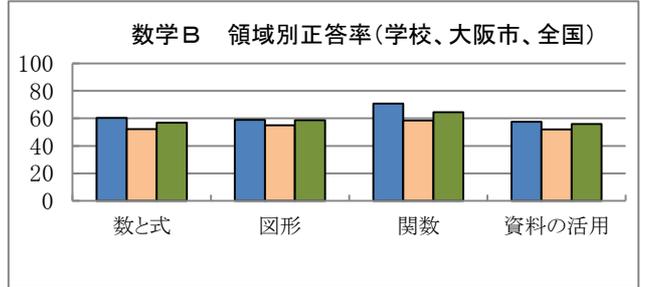
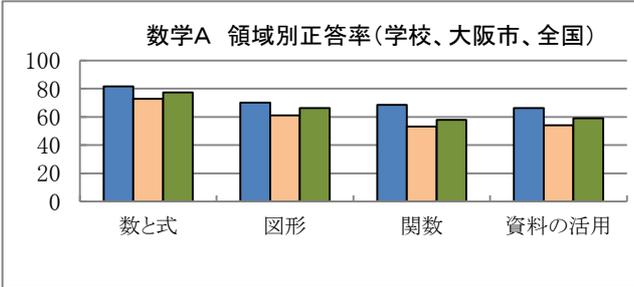
【数学】

結果の概要

A問題では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」すべてにおいて、全国平均を上回った。
B問題では、「数と式」「関数」において全国平均を大きく上回り、「図形」「資料の活用」でもわずかに上回った。

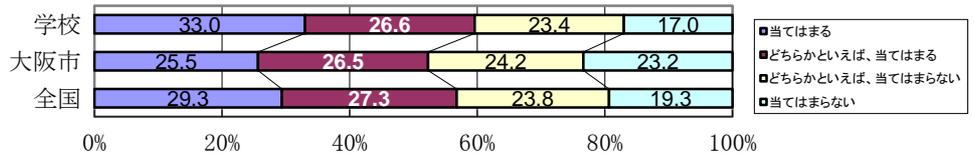
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	12	81.6	72.8	77.4
	図形	12	70.2	61.2	66.4
	関数	8	68.5	53.2	58.0
	資料の活用	4	66.4	54.0	59.1

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	3	60.2	52.1	56.9
	図形	5	58.9	55.0	58.6
	関数	5	70.8	58.5	64.4
	資料の活用	2	57.5	51.9	55.9

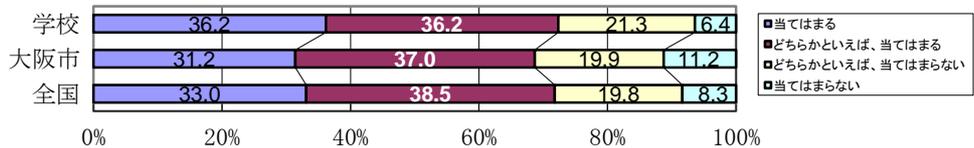


数学に関する「生徒質問紙」

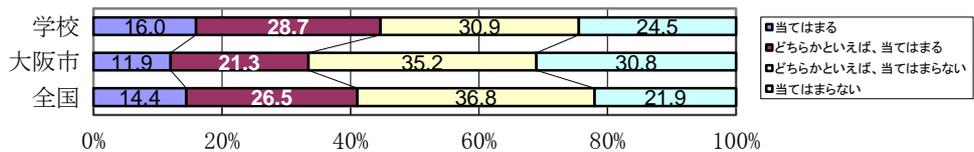
62
数学の勉強は好きですか



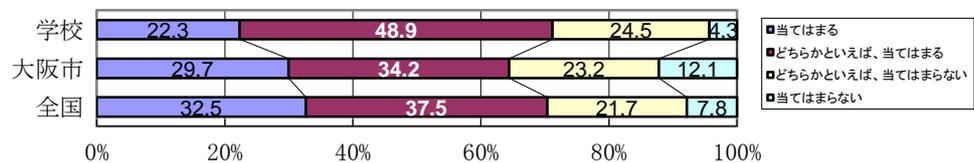
64
数学の授業の内容はよく分かりますか



67
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

授業では、意欲的に学習に取り組める教材の提供に努めてきている。さらに、学力のレベルに応じて自分のペースで学習できる環境づくりができていていることが成果につながっている。今後は、B問題の正答率向上が課題である。

今後の取組

日頃の教科指導において、積極的にB問題に類似した教材を導入する。

学びの充実に向けて(1)

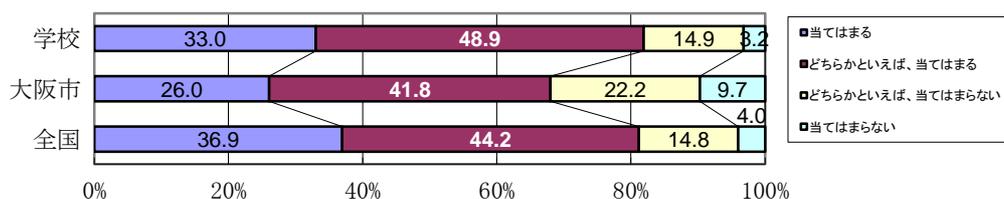
結果の概要

授業における「自分の考えを発表する機会が与えられていた」、生徒間で「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」では、全国平均並みであった。
「読書は好きか」では、「当てはまる」が46%で全国平均並みであるが、「どちらかといえば当てはまる」において4ポイント下回った。

質問番号 質問事項

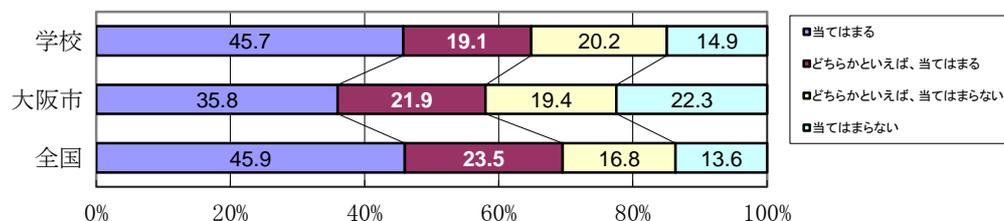
42

1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



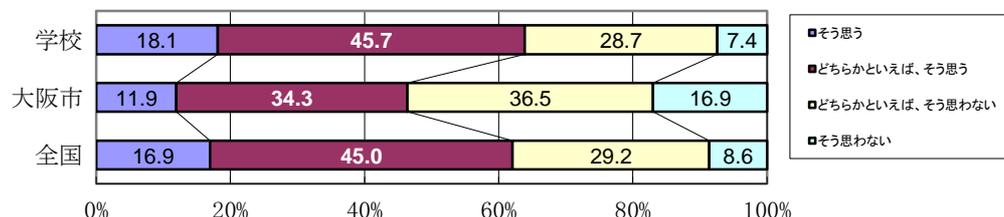
53

読書は好きですか



48

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか



成果と課題

本校では、「学校教育改善アクションプラン」に言語活動の取り組みを位置づけ、取り組みを進めてきている。この中で、生徒が自分の考えを発表することができる機会や場を多く確保した授業づくりに取り組んできている。取り組みの成果は出てきているが、今後とも深化・充実を図っていくことが求められる。

今後の取組

自分の意見の発表の機会や場を多く設定した取り組みを、今後ともより充実させた教育活動を進めていく。また、言語活動の充実に向けて、図書館活動を推進し、読書活動の展開に努めてきているが、「読書時間の確保」「図書室の活用」において、より一層の取り組みを進めていく。

学びの充実に向けて(2)

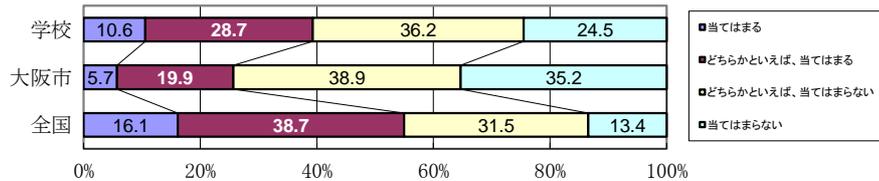
結果の概要

「総合的な学習の時間」において、課題に応じた情報収集・整理、調べたことをまとめ発表するという内容に関しては、取り組みに遅れが見られる。しかし、生徒質問紙の「2年生の時に受けた授業では、生徒間での話し合う活動をよく行っていた」では、取り組みに効果があったという結果であった。

質問番号 質問事項

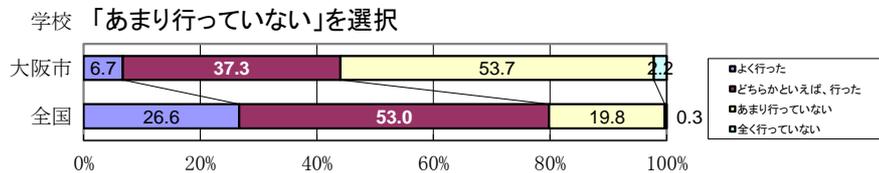
40

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



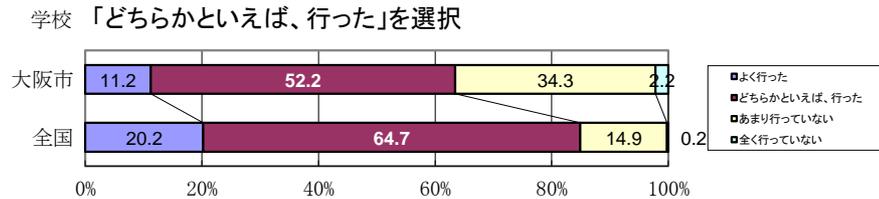
42【学校質問紙】

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



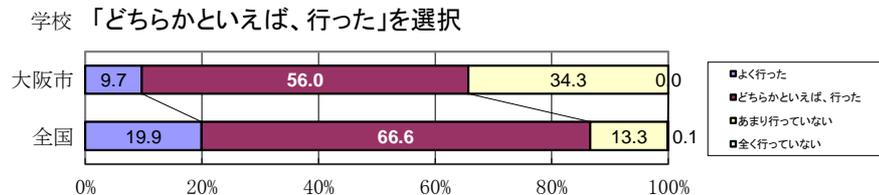
30【学校質問紙】

各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



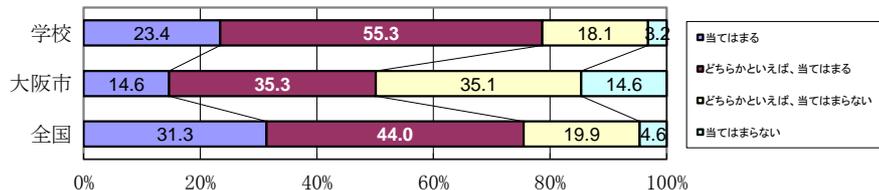
41【学校質問紙】

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43

1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

学習活動の中で、課題を立て情報を収集・整理し、まとめて発表していくことに関して、総合的な学習の時間においては、指導方法を改善していく必要があると考える。しかし、教科の授業においては、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることについて優れた結果となっている。

今後の取組

教科指導における授業改善が進んでいることは、生徒の意識・実態から表れている。今後は、総合的な学習の時間など、学校が行う全ての教育活動の中で、より一層の取り組みを進めていく。

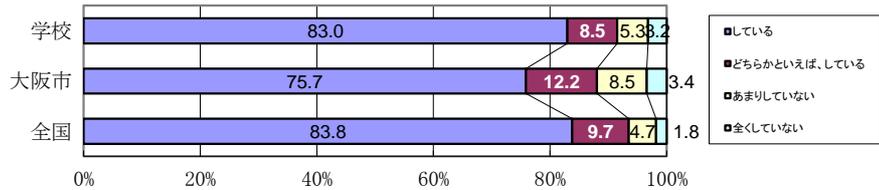
基本的生活習慣

結果の概要

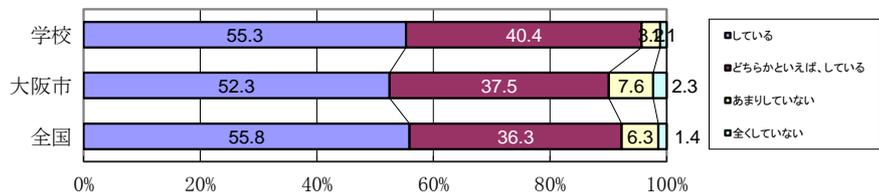
「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じ時間に起きていますか」という、基本的生活習慣においては、全国平均並みであった。また、「1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをしますか」では、「4時間以上」としているとの回答が、全国平均を18.8ポイントも上回った。1日当たりのテレビゲームの時間においても、「4時間以上」で5ポイント上回った。

質問番号 質問事項

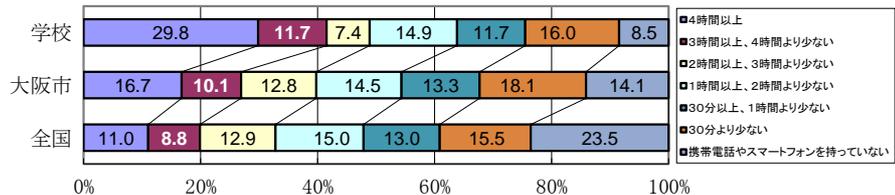
1
朝食を毎日食べていますか



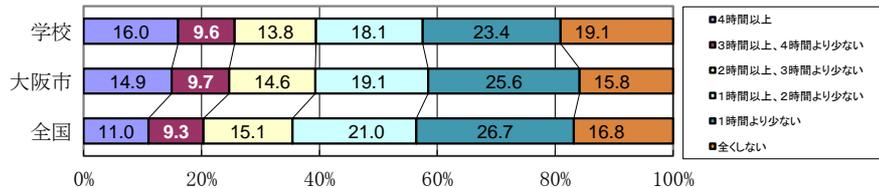
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

基本的生活習慣に関わり、寝食におけることについては、確立されていると考える。しかし、携帯電話、スマートフォンの使用やゲームに関しては、長時間にわたる使用に課題がある。この時間が、家庭学習の時間に影響を及ぼしているということが、本調査結果の他の項目に表れている。

今後の取組

本校の生徒は、基本的生活習慣が確立されており、規則やルール、約束をよく守ることができているという実態がある。携帯電話やスマートフォンの使用時間に課題があるが、家庭において使用ルールを決め、守らせるなど、家庭教育と連携した取り組みが必要であり、初期所持の段階での指導を考えると小学校と連携した取り組みを進めていく必要がある。

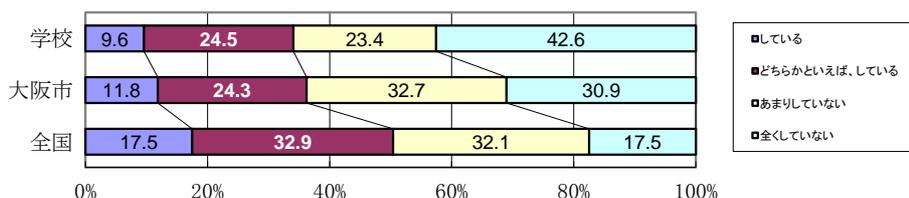
家庭学習

結果の概要

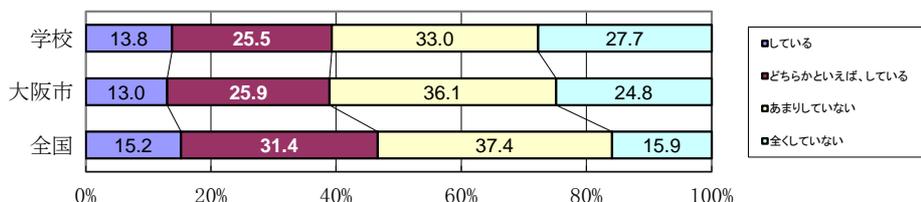
「家で、学校の授業の復習をしていますか」では、全国平均よりも低く、大阪市平均と比べても低い結果となった。学習塾や家庭教師を含む「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、「3時間以上」と回答した割合は全国平均と変わらないが、それ以下の時間において、全国平均を下回る結果であった。また、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」でも、全国平均を下回った。

質問番号 質問事項

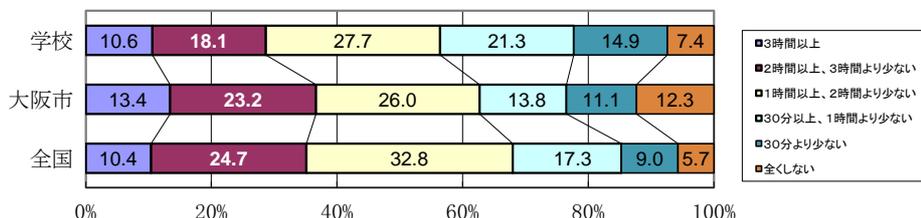
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



成果と課題

過去の調査結果から、全国平均と比べて、本校生徒の家庭での学習時間は短く、学校の授業の予習・復習をしている割合が低いという実態があったので、学力向上の取り組みで、「学びにおける自学自習」、「家庭学習の習慣化」に重点を置いて取り組みを進めてきている。経年比較をするとわずかに向上しているが、一層の取り組みが必要である。

今後の取組

家庭学習時間が短いにも関わらず、国語A、数学A、数学Bでは、全国平均を上回る結果となっている。学校における授業に成果があると考えられ、授業改善の取り組みは今後も発展・充実させていく。これとともに、家庭学習の習慣化に関する「学校教育改善アクションプラン」の取り組み内容を今後とも継続していく。

自尊心・規範意識

結果の概要

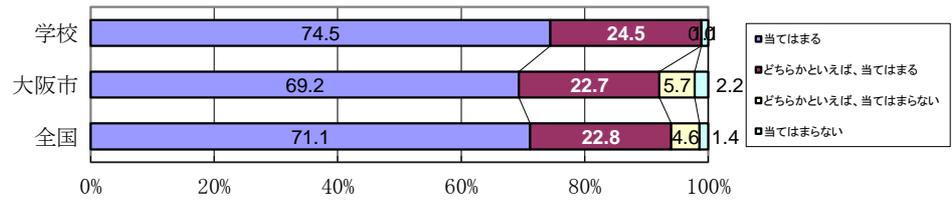
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」では、全国平均を上回り、非常に高い数値となっている。

学校の規則の遵守については、全国平均と差がない。

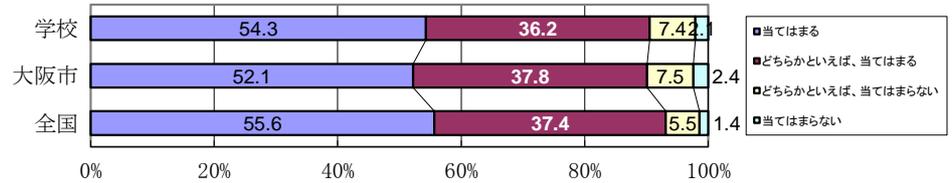
「先生が自分のよいところを認めてくれていると思うか」については、全国平均をわずかに下回るが、「自分自身のよいところがわかるか」では、「当てはまる」と答えた数値は低いものの、全国平均並みである。

質問番号 質問事項

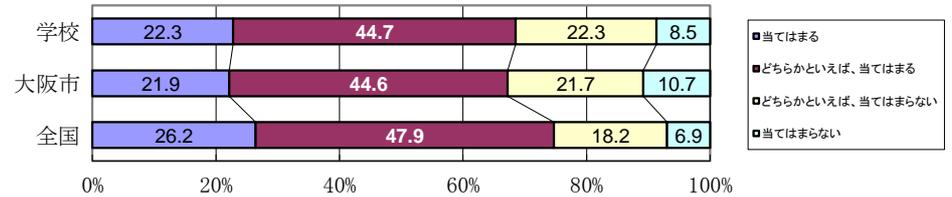
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



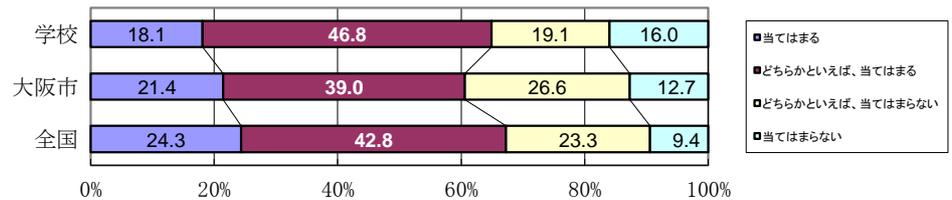
34
学校の規則を守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

これまで3年間の本校の推移を見てみると、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「自分によいところがある」は、当初全国平均から6ポイント程度低かったが、年々向上し、今年度結果は全国並みまで向上した。様々な教育活動の中で、自己有用感を実感できることを重視した取り組みに成果が見られたと考える。より一層の充実をめざし取り組んでいくことが求められる。

今後の取組

本校では、生徒から信頼ある評価活動を推進している。これまでの取り組みを深化・充実させ、生徒の学習評価だけでなく、学校教育全般の中で、一人ひとりのよさが尊重される教育活動を展開していかなければならない。

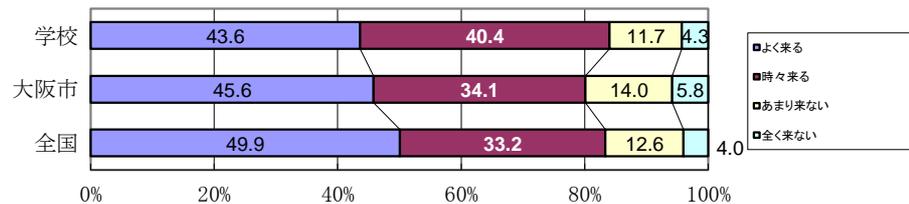
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

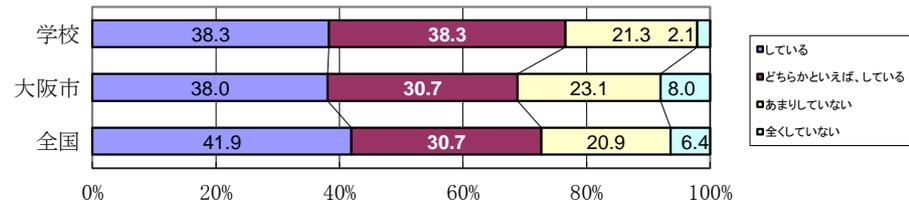
学校行事への家族の参加実態は、「よく」がわずかに低いものの、全国平均より高い結果であった。学校での出来事を家族に話している割合も全国平均を上回った。本校保護者の学校教育に対する関心の高さと、家庭の教育力につながる子どもとの会話に関して数値が高かった。その反面、地域や社会での出来事への関心については、全国平均を下回った。

質問 番号	質問事項
----------	------

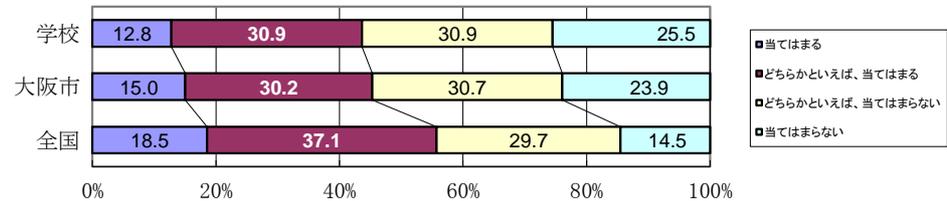
20
家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか



成果と課題

本校では、開かれた学校づくりを推進し、土曜授業における授業参観・学校公開を数多く実施してきているが、昨年、今年と1回当たりの来校者数は減少している。また、学校が配布する文書が、生徒を通じて保護者のもとまで届くことに課題がある。また、社会で起こっている問題や出来事に対する関心については、これまでも本校の数値は低かったが、昨年に比べ向上してきているが、まだまだ向上をめざして取り組んでいかなければならない。

今後の取組

学校教育に対する理解を保護者に求めていく上で、学校行事の組み方や情報の届け方について、実施方法の改善を図っていく必要がある。また、社会との関係については、生徒の身近なところから社会とのつながりにふれることなどの機会を多く確保し、自らの生活との関係の中で考えていけるようにしていく。

学校組織の改善

結果の概要

学校組織の改善に関わっては、「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」では、よく取り組んでいるとしている。また、「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取り組んでいるか」でも、よく取り組んでいるとしている。授業研究に関する項目については、学年毎に3教科、合計9コマの授業研究を実施するとともに、年間一人一回の研究授業を行っている。

質問番号 質問事項

98 【学校質問紙】

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校「よくしている」を選択



96 【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

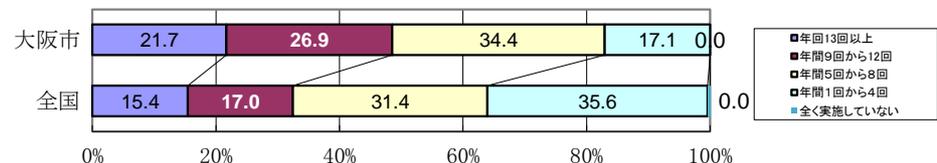
学校「よくしている」を選択



89 【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間9回から12回」を選択



成果と課題

本校では、学校評価活動のサイクルを有効に活用し、取り組み内容を明らかにした「大淀中学校教育改善アクションプラン」を作成して教育活動を進めてきている。このことにより、学校運営の課題を全教職員の間で共有し、教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有することができている。今後もアクションプランの効果検証・改定を進め、学校運営の改善に努めていくことが求められる。

今後の取組

これまでの3年間の取り組みから見えてきたことは、学校運営の課題を明確に示し全教職員で共有し、取り組みを進めてきた内容については、成果として表れてきている。本校が取り組む「大淀中学校教育改善アクションプラン」の効果検証を確かなものとし、今後の取り組み内容を明確化して学校運営に活かしていく。